

科目名 Subject Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
保育実習指導 I Guidance and Evaluation Care Practicnm I		1年	通年	前期 金曜日・1時限、2時限 後期 火曜日・3時限、5時限
単位数	授業の形態		授業の性格	
2単位	演習		選択 (保育士養成課程必修)	
当該科目の理解を促すために受講することが望まれる科目				
保育士養成課程必修科目				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
保育士養成課程科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
高橋登美子	講義棟3階	火・水・金 (授業時間除く)		授業中に指示します
授業の概要				
保育実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲにおけるそれぞれの実習内容や特徴、実習に臨む際に必要な準備や注意点について知り、保育実習の意義や目的を理解しながら保育士の仕事や社会的な役割について学習する。				
授業の到達目標				
①保育学生として必要な挨拶、電話のかけ方、言葉遣い、公共マナー、必要書類の扱い方など、事前準備について理解できるようにする。 ②実習施設においての実習オリエンテーションを、計画的に進め、的確に準備できるようにする。 ③保育実習Ⅰ(保育所)に向けての実習目標を定め、実習の記録記入の必要性を考えて取り組むことができるようにする。				
授業の方法				
「保育実習とは」という問題をまずは各自が理解することが必要なため、授業の様子や理解の状況によって授業内容に工夫や課題、演習活動を加えていくことも含め、基本的な礼儀作法や対人関係についても身につけられるような授業とする。				
学習の成果				
①実習に臨む姿勢を理解し、実践することができる。 ②実習オリエンテーションの書類準備に不備が無く取り組み、計画的に進めることができる。 ③個性を活かした実習目標を定めて実習に臨み、実習施設に適応した日誌の記入をすることができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス (通年科目としての授業の進め方、この授業の目的と必要な学びについて、出欠席について他)			
第2回目	保育実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲについて知る			
第3回目	保育実習Ⅰの実習施設検討について (公立・私立の保育所について知る)			
第4回目	保育実習と教育実習の違いについて (教育実習の実習園検討について、観察実習と総合実習について)			
第5回目	実習に臨む基本的事項の学び (電話連絡・対応の言葉遣いについて)			
第6回目	実習に臨む基本的事項の学び (実習施設訪問、実習内諸書の扱い方について)			
第7回目	実習に臨む基本的事項の学び (実習内諸書の扱い方の確認と学校提出について)			
第8回目	実習に臨む基本的事項の学び (実習施設におけるオリエンテーションについて)			
第9回目	実習に関わる抗体検査の実施と抗体検査結果表の扱い方・保管・提示の方法を知る			
第10回目	保育実技・実習準備について知る (保育教材「紙芝居」について)			
第11回目	保育実技・実習準備について知る (実習生調査表の記入)			
第12回目	保育実技・実習準備について知る (夏期休業中の体験実習について)			

第13回目	保育実技・実習準備について知る (夏期休業中の体験実習に関する準備と書類の扱い方について)
第14回目	実習に向けて～保育実習の目的と方法
第15回目	実習に向けて～夏期休業中に取り組んでおくこと・準備しておくこと
第16回目	実習に向けて～保育実習の意義と実習に臨む心構え
第17回目	実習にむけて～提出書類の記入の仕方と扱い方、提出の仕方
第18回目	実習に向けて～実習施設におけるオリエンテーションについて—実践編—
第19回目	実習に向けて～実習実施までの実習計画を立てる
第20回目	教育ビデオ「保育者を目指すあなたへ第1巻」の観賞～実習に向けての意識を高める
第21回目	教育ビデオ「保育者を目指すあなたへ第2巻」の観賞～実習に向けての意識を高め課題を見出す
第22回目	実習日誌について～実習日誌とはを考える
第23回目	実習日誌の扱い方と記入の工夫について
第24回目	実習日誌の記入の仕方と提出方法について
第25回目	実習終了後の日誌の提出と日誌の活用について～「保育実習とは」の小テスト実施
第26回目	保育製作「ペーパーサート」を作成する (各自材料の準備をする～教材研究について知る)
第27回目	保育計画について知る～実習計画の作成 (指導案作成：提出に関しては授業内にて指示)
第28回目	保育計画案・保育指導案について学ぶ
第29回目	保育指導案の作成 (例に挙げた活動を実際の保育として捉え案を作成する)
第30回目	保育実習に向けての目的意識の確認と実習準備の確認

成績評価の方法と基準

評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	50%	出欠点呼での返事の有無を確認する。私語や居眠りの状況は授業態度としては適さず、また実習に関する連絡漏れに繋がり他の学生にも迷惑なので注意を促しても改善されない場合は退席を求め減点とする。
レポート	20%	状況を踏まえた実習計画を適切な用語や表現を用いて立案する。
調査報告書		
小テスト	20%	保育実習とは何か、実習に関する必要事項 (書類の扱いも含む) が理解できている。適切な用語や表現を用いての記入ができています。
中間・学期末試験		
発表内容 (態度含む)		
その他	10%	計画的に実習オリエンテーション臨むこと。

教科書と参考図書

「保育実習の手引き」佐野短期大学

履修上の心得・ルール

実習に臨むためには、社会的な立場として振舞える基本的マナーが必要不可欠であるため、保育学生としての履修を心がけていただきたい。欠席多数や実習準備に不備がある場合は実習に臨むことが困難になることもある。遅刻3回は欠席1回の扱いとし、また欠席が3回続いた場合は理由によっては面談を行う。実習を控えた16回目以降の授業欠席多数の状況によっては実習実施を延期することも考えることとする。